

→子午線が通る町で、松本清張を読む
2022年12月11日(日) カルチャーウォーキング
関西文学散歩 第575回 参加報告

天文科学館北側の人磨山月照寺から、子午線標示柱の前を通り、柿本人磨神社へ。歌聖柿本人磨呂ゆかりの神社である。人磨呂は明石で多くの歌をよんでいる。小説では和服の美しい女性と主人公で作家の伊瀬がはじめて出会った場所である。「Dの複合」はミステリー。推理小説、そして清張大好きの私は興味をもって読み始めた。この物語で伊瀬は編集者の浜中と古代伝説をさぐる旅に出る。はじめは、丹後木津温泉。網野の浦島伝説である。そして羽衣伝説、補陀落渡海。その伝説地でおこる殺人事件。その地はなぜか東経135度、北緯35度、子午線上に存在する。35という数字、そしてDの複合とはどういう意味か。

私はあるカルチャーセンターの「民俗学と万葉集」という講座に通っている。古代伝説と、ミステリー、そして万葉歌人柿本人磨呂。個人的には大好きな世界の融合である。

このウォーキングの資料が届いた時、おりしも夫の兄弟総勢七人、皆元気なうちにと兄弟旅行の話がもちあがっていた。幹事を任せられた私は迷わず決めた。木津温泉に泊まってカニを食べよう。そして、来月行くことになっている。

天文科学館を出て、「両馬川の戦い」という源平の戦いで討たれた平忠度の腕塚と胴塚に参拝。清張の泊まった人丸歌壇のわきを通り、夏目漱石が講演をしたという中崎公会堂という趣のある建物を外観だけ見学し「魚の棚」で解散。何か明石のおいしい物でも買って帰ろう。

——ほのほのと明石の浦の朝霧に 島かくれゆく舟をしそおもう——



日本標準時子午線

明石のひとつ手前、朝霧駅の名前の由来となった柿本人磨呂の歌である。朝霧駅は海が見えるインスタ映えする駅。一度降り立つことができればと思う。

また前述の万葉講座で先生に聞いたことがある。国道175号線、愛称明舞国道。ほぼ、子午線上を通る国道で走ると爽快感を感じるという。これも一度ドライブしてみたいと思っている。その途中、北緯35度と交わるあたりに西脇市がある。ここは播州織の産地。そしてへその町として当会のバス旅「ちょっと遠出」で行ったなと思い出した。



明石市立天文科学館

〈報告:松浦裕子〉